時事新報

第八百八十一號

明治十八年一月卅一日　土曜日

日曜日休刊

驛遞局認可

時事報報

官報再讀ス可シ

井上特派全權大使ガ朝鮮京城ノ使命ヲ終リテ歸朝ノ後其談判ノ模樣ヲ承ハレバ大使ニモ頗ル盡力セラレテ終ニ韓廷ト五箇條ノ新約款ヲ結ビ是レニテ日本ト朝鮮トノ交際ハ舊ノ平和親睦ニ復シテ誠ニ目出度キ次第ナリ又大使ガ韓廷ヲ責ルコノ際ナリザルモ最モ我日本國民ノ悅ブ所ニシテ滿足ノ外アル可ラズ然ルニ爾來世上ニテ樣々ノ說ヲ作シ朝鮮變亂ノ一條ハ最早大使ノ歸朝ニテ終局ヲ告ゲタリト云フ者アレバ又或ハ否ナ然ラズ大使ハ唯日韓兩國間ノ葛藤ヲ解キタルノミニシテ事變ノ主タル支那トノ談判ハ今日尙ホ未ダ着手ニナラザルガ故ニ全体ノ始末ハ半途ニモ至ラズト云フ者アリ夫レニ就テハ支那政府ニ向テノ談判ハ斯クノ如クシテ可ナラン當時支那人ノ擧動ハ斯ク〳〵ナリシガ故ニ我レモ亦コレニ報ルニ云々ス可シナド、テ日本國中、上下貴賤ノ別ナク婦人小供ニ至ルマデモ各一說アラザルハナシ方今談判ノ終リ、無事ナリト云ヒ、一方ハ今我輩モ殆ド其判斷ニ苦シム譯ケナレ𪜈今ノ時節自カラ賤劣ヲ顯ルニ進アラズ其多キ論說中ニ部見ノ一說ヲ加ヘテ大方ノ歎ヲ乞ハントス抑モ今回ノ事變ヲ名ケテ朝鮮事變ト稱スト雖𪜈此朝鮮ノ二字ハ唯場所柄ヲ示スノ文字ニシテ事ノ性質ヲ彰ハシタルモノニ非ズ故ニ事變ニ冠スルニ朝鮮ノ二文字ヲ以テスルモ朝鮮國ノ人民ト日本國ノ人民トノ間ノミニ事變ヲ生ジタリト云フノ意味ニ解ス可ラズ其實ハ事變ノ時ニ朝鮮國ノ京城ニ支那兵ナルモノアリテ此支那兵ト日本兵トノ間ニ先ヅ紛爭ヲ生ジ次テ朝鮮人ト日本人トノ間ニモ變ヲ起シタルナレバ事變ノ場所柄ハ朝鮮國ノ土地ナレ𪜈其事柄ノ性質ハ先ヅ支那人ト日本人トノ爭ヒ次デ支那人ニ加ルニ朝鮮人ヲ以テシタルモノナリト云ハザルヲ得ズ、斯ク中スモ今日多吉ナル世ノ中ナレバ我輩ハ此一編ニ於テ一部世人ノ言ヲ聞カズ唯日本政府ノ官報ノ文面ヲ證據ニシテ部見ノ果シテ確實ナルヲ看客諸君ニ明ニセントスルモノナリ蓋シ內外諸方ヨリノ通信報道ニハ往々誤聞モ少ナカラズシテ時ニ或ハ之ヲ新聞紙上ニ記シテ間モナク正誤取消シ等ノ不都合アレ𪜈唯政府ノ官報ハ則チ能クズ事ノ眞實ヲ記シテ曾テ違フコトナク是レマデトテモ稱ニ銅像ノ正誤ハ見タルコトアレ𪜈政治上大切ノ事柄ニ關シテハ天地ニ誓テ僞證ス可キモノナレバ諸君ニ於テモ安心シテ之ニ信用ヲ置クコトナラン即チ今ヲ去ル凡ソ一月半明治十七年十二月十五日發兌ノ官報ニ

○十二月十三日長崎領事任翼陽公使館報告　本月四日

朝鮮國京城ニ於テ變動起ル閔泳翊等數名殺害ニ遭ヘリ我ガ公使ハ急劇ノ際國王ノ請求ニ依リ王宮ニ赴キタルニ同地駐在ノ清國將官モ亦兵ヲ率ヒ王宮ニ到リ我ガ兵トノ間ニ紛爭ヲ生ジ終ニ彼ヨリ砲發ニ及ビ互ニ死傷アリタリ日本公使館ハ兵燹ニ罹レリ公使ハ本月八日一時濟物浦ニ引移リ同處ニ於テ朝鮮政府幷ニ清國官吏ト談判中ナリ

清國官吏ト談判中ナリ

トアリ今コノ文面ヲ解剖ス可キ十二月四日朝鮮國京城ニ於テ變動起リ閔泳翊等數名殺害ニ遭ヘリトハ同日郵征局ニテ獨立黨ノ人ガ泳翊ニ傷ケ次デ閔台鎬以下六大臣ヲ戮シタルコトナラン是レハ韓廷內政ノ都合ニテ斯ル處分シタルコトニテ全ク朝鮮國王ト其親臣トノ內議ニ成リシコトナランナレバ即チ朝鮮政府內部ノ變動ニシテ日本人モ支那人モ共ニ知ラザル所ナリ又知ル可キ事ニモ非ザルナリ扨コノ變動ニ付キ我公使ハ急劇ノ際國王ノ請求ニ依リ王宮ニ赴キタリトアリ國王ハ獨立黨ノ諸臣ト果斷ノ處分ヲ施シタレ𪜈一時人心ノ騷立ツモアランカトノ掛念ヲ以テ率ニ日本ノ公使館ニハ護衛兵モアルナレバ威臣朴泳孝ヲ勅使トシテ臨時護身ノ左モアル可キ事ニシテ毫モ怪シムニ足ラズ、然ルニ同地駐在ノ清國將官モ亦兵ヲ率ヒ王宮ニ到リ我ガ兵トノ間ニ紛爭ヲ生ジ終ニ彼ヨリ砲發ニ及ビ互ニ死傷アリタリトアリ是即チ日支關係ノ發端ナリ互ニ死傷トアレバ日本兵モ死傷シ支那兵モ死傷シタルコトナラン難𪜈清國ノ將官ハ何故ニ兵ヲ率ヒテ王宮ニ到リ日本兵ニ向テ戰端ヲ開キタルヤ彼ヨリ先ヅ砲發スレバ日本兵ハ軍法ニ於テ正當ノ防禦ヲ爲サザル可ラズ時ニ互ニ死傷アリタレバトテ支那兵ノ死傷ハ以テ彼ガ妄ニ無名ノ戰端ヲ開キタルノ罪ヲ償フニ足ラズ之ヲ喩ヘテ云ヘバ持兇器強盜ガ人家ヲ犯シタル時ニ主人ガ正當ノ防禦ヲ爲シ主人モ死ヲ被リ同時ニ賊モ亦死ヲ負フト雖𪜈賊ノ手死ハ以テ其持兇器強盜ノ罪ヲ輕クスルニ足ラザルガ如シ、扨日本公使館ハ兵燹ニ罹レリ公使ハ十二月八日一時濟物浦ニ引移リ同處ニ於テ朝鮮政府幷ニ清國官吏ト談判中ナリトアリ支那兵我レニ向テ戰ヲ挑ミタルノ一擊ニシテ事態大ニ紛亂シ公使館ハ兵燹ノタメニ灰燼ト爲リ日東ノ國旗モ空シク之ヲ卸シテ公使ハ館員幷ニ陸軍兵ト共ニ濟物浦ニ去リタルコトナラン

我輩ガ明治十七年十二月十五日ノ官報ヲ再讀シテ其註釋ハ右ノ如クシテ毫モ私意ヲ交ヘザルモノナレバ看客諸君ニ於テモ之ニ異論ハナカル可シ、邦國ノ大事ナリ國權ノ關スル所榮辱ノ歸スル所コレヨリ大ナルハナシ苟モ外國ト鋒ヲ交ヘテ未ダ其落着ヲ見ザル間ハ國民ノ胸トシテ決シテ安心ス可ラズ我日本國ノ兵ハ我ニ朝鮮ノ京城ニ於テ實際支那兵ノ砲發ニ逢フテ死傷アリタリ其死傷ノ多少ハ枝葉ナリ其事柄ハ實ニ我大日本國ノ歷史ニモ未ダ曾テ見ザル所ノ一大事ナリ我輩ハ唯猶ヲ屈シテ其落着ノ日ヲ待ツノミ左レバ井上大使復命ノ後明治十八年一月二十一日發兌官報號外太政官ノ告示ニ日韓ノ約款五條ヲ示サレテ

約款

第一

朝鮮國

國書ヲ修メテ

日本國ニ致シ謝意ヲ表明スル事

第二

此次

日本國遭害人民ノ遺族並ニ負傷者ヲ恤給シ竝ニ商民ノ貨物ヲ毀損掠奪セラルヽ者ヲ塡補シテ

朝鮮國ヨリ十一萬圓ヲ撥支スル事

第三

磯林大尉ヲ殺害シタル兇徒ヲ查問捕拿シ重ニ從テ刑ヲ正ス事

第四

日本公館ハ新基ニ移シ建築スルヲ要ス當ニ

朝鮮國ヨリ地基房屋ヲ交附シ公館暨ビ領事館ヲ容ルニ足ラシムヘシ其修築增建ノ處ニ至テハ

朝鮮國更ニ二萬圓ヲ撥交シ以テ工費ニ充ツル事

第五

日本護衛兵弁ノ營舍ハ公館ノ附地ヲ以テ擇定シ壬午續約第五款ヲ照シ施行スル事

トアレ𪜈其五條中支那兵ニ關シタルコトヲハ一句モ見ヘズ義ノ官報ニハ支那兵ト我カ兵トノ間ニ紛爭ヲ生シ終ニ彼ヨリ砲發ニ及ビ云々トノ大事件ヲ記シテ今度ノ官報ニハ其事ノ結末ナキガ故ニ井上大使ノ使命ハ日本ト朝鮮トノ葛藤ヲ解キタルノミニシテ我政府ノ談判尙未ダ支那政府ニ向ハザルカ或ハ今正ニ談判最中ナルカ又或ハ其談判ノタメニ特命全權大臣ヲ北京ヘ差向ケタルヽカ其迹ハ固ヨリ我輩ノ知リ得ベキ限ニ非ザレ𪜈兎ニ角ニ日支ノ關係ハ單ニ官報ノ文面ヲ見ルノミニテ今日尙未ダ始末ノ付カザルヤ明ナリ蓋シ始末トハ其文字ノ如ク彼ヨリ砲發シタルガ始ニシテ我ヨリ其砲發ノ罪ヲ問ヒ滿足ス可キ賠償ヲ得ルガ末ナリ我輩唯其始ヲ聞テ未ダ其末ヲ見ズ故ニ今日既ニ朝鮮事變ノ終局ヲ得タリトノ說ハ未ダ官報ヲ讀マザル者ノ粗言ニシテ取ルニ足ラザルナリ

雜報

○孝明天皇祭　先帝の御例祭は前號に記し奉りたる如くなりしが聖上ゐは午後五時再び神殿に出御ゐらせ給ひて夕の御祭典を執行遊ばされたり又右祭典に皆參洋なせし皇族、大臣、參議、勅任官へハ正午時宮中に於て御陪食を仰付られたりと

○古稀れ書畫　二品山階晃親王には來月二、三、四の三日間古稀れ書畫を富士見町の御邸に開かるゝに付聖上皇后宮には二日間邸へ行幸あらせ給ふ旨御內意と仰出さるゝやに承る又三、四の兩日は皇族、大臣、參議勅任官等族方を御請ぜられて盛饌を饗せらるゝ御都合ありと

○大山伯　今度岡伯の歸朝せしに付有栖川左府宮ゐは一昨廿九日ゐは昨卅日各

○川村參謀　

○曾紀澤、れば英人某る汽船七艘曾紀澤ハ英船を佛人ゐ得せしめた に及びたれ を守らざる 國半官報と く全くの訛 せずと言へ

○ゴルドン にゴルドン り且つナイ ば爲めに二 ん將軍ハカ之を破壞し 軍の有する あり又將軍 り、ゴルド り且つ守備 其功を奏し 吾々の手ゐ

○三島通庸氏 縣下名古屋 廻する都合 ○倫敦往留 ハールバル の風說わり 氏は多年合 和黨の爲め りも同氏の 來住し英國 に任せらるゝ 見えゐり

○故小笠原三 立以來持據 五年間國プル よりも早く一 て目下在京 て退薄會と 我輩ガ明治十七年十二月十五日ノ官報ヲ再讀シテ其註釋ハ右ノ如クシテ毫モ私意ヲ交ヘザルモノナレバ看客諸君ニ於テモ之ニ異論ハナカル可シ、邦國ノ大事ナリ國權ノ關スル所榮辱ノ歸スル所コレヨリ大ナルハナシ苟モ外國ト鋒ヲ交ヘテ未ダ其落着ヲ見ザル間ハ國民ノ胸トシテ決シテ安心ス可ラズ我日本國ノ兵ハ我ニ朝鮮ノ京城ニ於テ實際支那兵ノ砲發ニ逢フテ死傷アリタリ其死傷ノ多少ハ枝葉ナリ其事柄ハ實ニ我大日本國ノ歷

○代理　高木

控訴戴判所の

ふれたり

○留別の宴

三十日午後よ

の宴を開た

○移轉　宮內

館跡へ移轉す